

# 江別屯田兵村開村140周年記念講演



## 「江別の始まり」 田中和夫氏

8月25日(土) 午後3時30分より  
セレモニーホールはやし野幌  
(江別市野幌町55番地)

作家 1933年江別生まれ。江別高校卒業。  
文芸同人誌「札幌文学」編集・発行人  
著書：「残響」「北海道の鉄道」「木製戦闘機キ106」  
「物語サッポロビール」など多数  
1982年 第16回北海道新聞文学賞  
1988年 北海道文化奨励賞受賞

高度経済成長の電力需要の高まりに対応するため、北海道電力は発電所に隣接する坊主山198千m<sup>2</sup>を整地造成して新火力発電所を建設した。

この坊主山には大変貴重な遺跡があったのだが発掘に十分な時間がかけられる状況にはなく、わずか2ヶ月間の作業となったが、多数の墓穴と人骨、副葬品が出土した。これらの土器を坊主山式土器、この文化を江別文化と呼ぶ。

この江別文化が全道一円に普及し、さらには宮城県北部や新潟県中部にまで広がりを見せたのは石狩川の存在があったからである。

明治11年、石狩川を遡上して攻撃してくる敵から道都札幌を防衛するため石狩川左岸に江別屯田兵村が配置された。

千年の時を隔てて石狩川と江別が歴史に大きな役割を記すことになる。

受講料は無料です。会場設営の都合上、受講ご希望の方は後藤事務局長までFAX(382-3087)かメール([fujipen@poplar.ocn.ne.jp](mailto:fujipen@poplar.ocn.ne.jp))でご住所、お名前、電話番号をお知らせください。なお、これらの個人情報につきましては本講演関係以外には使用いたしません。

当日の受講受け付けは行いません。また受講希望者多数の場合、お断りすることがあります。(受講者数は150名程度)